

レコードプレーヤーで遊ぼう



去る10月30日(土)徳成寺において、寺ともサービス「レコードプレーヤーで遊ぼう」が開催されました。若者の間でもレコードが流行している事もあり、老若男女を問わずに交流ができるのではないかとこの事で副住職が企画しました。

副住職の企画での寺ともサービスは初めてなので、どうなるか不安もありました。しかし妻の父がはるばる東京からレコードを送ってくれたり、参加者の方も珍しいご当地ソングの貸し出しをして頂き、普段とは違った形での暖かい繋がりを感じるイベントとなって良かったと感じました。

皆さんの暖かいご協力により、当日までに様々なジャンルのレコードが集まりました。激レアなご当地ソングに始まり、1980年代の洋楽、クラシック、ダンスミュージックまでバラエティーに富んでいました。どのアルバムも数十年もの歳月を経ています。今聞いてもなんら遜色なく楽しむ事が出来ました。久々に活躍の場が与えられ再生されたレコードが生き生きとしているように感じられました。よくぞ大切に保管されていたと感慨深かったです。



副住職からレコードブームや取り扱いに関する注意のレクチャーを受けて、早速各自おススメのレコードを再生してみました。

先ずはご当地ソング「百間町ブルース」からスタートです。水木ジュンさんという方のデビュー曲だそうです。「会えば別れが辛いのに」で始まるムード歌謡でした。実兄が宇高連絡船の船員だったという方のチョイスは「連絡船慕情」という連絡船が廃止になる時の曲です。クラシックの名曲「G線上の

アリア」や高校生の頃聞いたというブルーハーツ。サンタナ、泉谷しげるの春夏秋冬。ストーンズタローのダンスミュージック。デビッド・ボウイやプリンス、ビーズ、パティ・オースティン等、曲を通して各人の歴史が垣間見えてとっても興味深かったです。

